



ひきこもり^{かぞくきょうしつ}家族教室
第Ⅰ回

ちばけん^{ちいきしえん}
千葉県ひきこもり地域支援センター



～ お約束 ～

みなさんにとっての有意義な時間となるように、
以下のルールを守りましょう。

- ① 参加者が話した内容を外に持ち出さない（秘密厳守）。
- ② 家族によって状態はそれぞれです。
他の人の話や経験を尊重しましょう。
- ③ 話したくない、言いたい事がない場合は無理に話す必要はありません。参加するだけでも十分意味があります。

この場所が安全で安心であるために、参加者一人ひとりの協力が 필요합니다。どうぞよろしくお願いいたします。





はじめに

『ひきこもり家族教室』では、ひきこもりご本人とともに生きていくために家族ができることについて学びます。

不登校・ひきこもり状態が長期化すると、本人が支援機関を利用しないだけでなく、家族が本人とコミュニケーションをうまくとれない状態になっている場合がめずらしくありません。

このような場合、本人の支援を行う前に、本人を支える家族の支援（家族支援）を行う必要があります。家族が本人と良好かつ建設的な関係を築くことができれば、それは本人が支援機関の利用を考えるステップへの第一歩となります。

この会では、主に次のようなことをめざします。

1. ひきこもりの理解
2. 安心できる関係づくり
3. ご本人・ご家族と社会とのつながり

第1回 ひきこもりのメカニズム

1. ひきこもりとは

「ひきこもり」とは、「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流^{こうりゅう}をほとんどせずに、自宅にひきこもっている状態^{じょうたい}」をいいます。

なお、以前は「6か月以上」と定義されていましたが、2025年に見直され、「期間は問わない」ことに変更されました。

家から出られない人もいれば、図書館^{としょかん}やコンビニに行くなど、他者^{たしや}と交^{まじ}わらない形で外出をしている人もいます。ひきこもりには様々な状態^{じょうたい}があります。

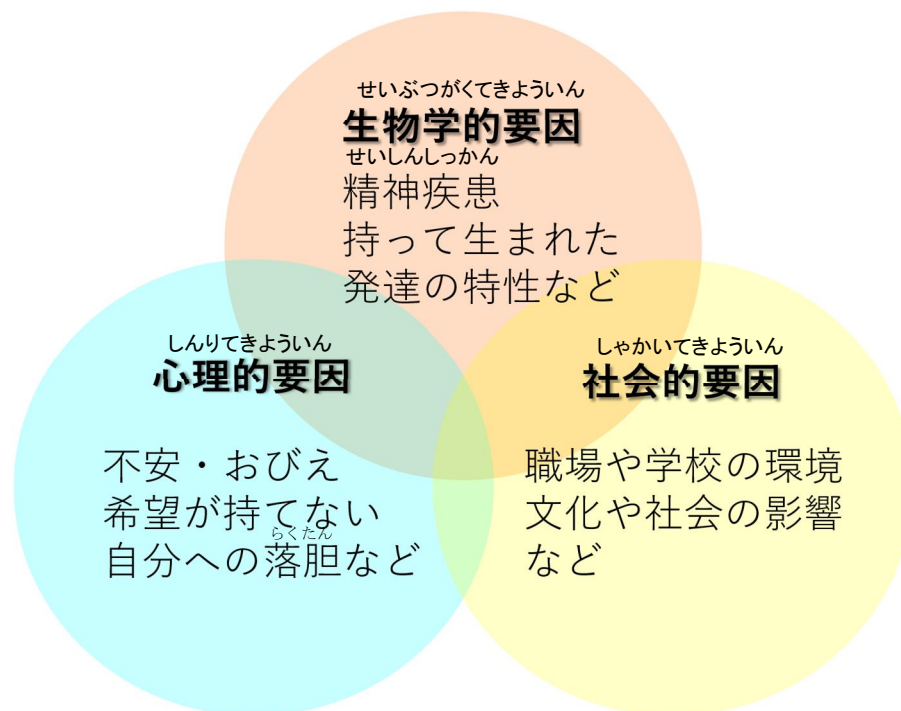


① ひきこもりはどういう人になるのですか

ひきこもりは特別な現象とくべつ げんしょうではありません。何らかの理由なん りゆうで、
周囲の環境しゅうい かんきょうに適応てきおうできにくくなった時に、誰でも「ひきこもる」
ということがありえます。

② ひきこもりの原因は何ですか

ひとつの疾患や要因しっかん よういんではなく、複数の物事がからみ合あって生しょうじる
場合がほとんどです。生物学的要因せいぶつがくてきよういん、心理的要因しんりてきよういん、社会的要因しゃかいてきよういんなどが
影響えいきょうを与え、その結果けっか「ひきこもり」という現象げんしょうが生じます。



図① ひきこもりの要因

③ ひきこもりになりやすい性格^{せいかく}はありますか

よく、「ひきこもり」をしている人々の性格^{せいかく}の特^{とく}徴^{ちよう}が、あたかも一^{いっ}種^{しゆ}類^{るい}にくくれるような言われ方をすることがありますが、実^{じっ}際^{さい}には、多^た彩^{さい}な人々が、「ひきこもり」の状^{じよう}態^{たい}におちいっています。

④ ひきこもりの特^{とく}徴^{ちよう}には何^{なに}がありますか

「ひきこもり」の長^{ちよう}期^き化^かはひとつの特^{とく}徴^{ちよう}です。「ひきこもり」が生^{しょう}じると、強^さいス^すト^とレ^れス^すを避^さけることができる反^{はん}面^{めん}、その状^{じよう}態^{たい}から抜^ぬけ出^だすのが困^{こん}難^{なん}になってしまうという面^{めん}もあります。

⑤ ひきこもりご本人^{おん}は、どのように思^{おも}っているのですか

・家^か族^{ぞく} / 親^{おや}に申^{もう}し訳^{わけ}ない

・他^た人^{にん}にどう思^{おも}われているのか不^ふ安^{あん}に感^{かん}じる / 集^{しゅう}団^{だん}が怖^{こわ}い

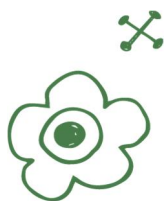
・動^{うご}けない自^じ分^{ぶん}はダ^だメだ

・も^もっ^もとが^とん^んば^ばら^らな^ないとい^いけ^けな^ないの^のに…失^{しつ}敗^{ぱい}は怖^{こわ}い

このように自^じ分^{ぶん}自^じ身^{しん}を責^せめたり、不^ふ安^{あん}感^{かん}や焦^{あせ}りをもっていること^{こと}が^お多^おいのです。

そのため、本^{ほん}人^{にん}に「安^{あん}心^{しん}」を感^{かん}じてもら^{もら}うこと^{こと}が^{だい}じ^じです。

そして、本^{ほん}人^{にん}に「安^{あん}心^{しん}」を感^{かん}じてもら^{もら}うには、家^か族^{ぞく}も安^{あん}心^{しん}で^き、自^じ分^{ぶん}自^じ身^{しん}の生^{せい}活^{かつ}に楽^{たの}しみな^などの彩^{いろ}りがあること^{こと}が^{だい}じ^じです。



2. ひきこもりからの回復過程一例～トラウマ的な視点から～

① 殻にとじこもる

降り注ぐストレスの雨から身を守っている状態です。
からだの休息が必要です。



② 安心・安全をじっくりと感じる

リラックスできる時間・場所・人を見つけていきましょう。



③ 楽しいことを体験する

肯定的感情は視野を広げ、緊張を和らげる効果があります。
ちょっとでもよかったことを見つけていきましょう。



④ 成功体験を積み重ねていく

「できることを重ねていく」ことで自信が回復していきます。
ほんの少しでもできていることを見つけていきましょう。



⑤ (i) 好奇心や新しいことへの挑戦につながります。

(ii) 否定的な感情やできごとに少し向き合うことができます。



⑥ 活動の場が増え、段階的な社会参加へとつながります。



3. 現状をみてみましょう

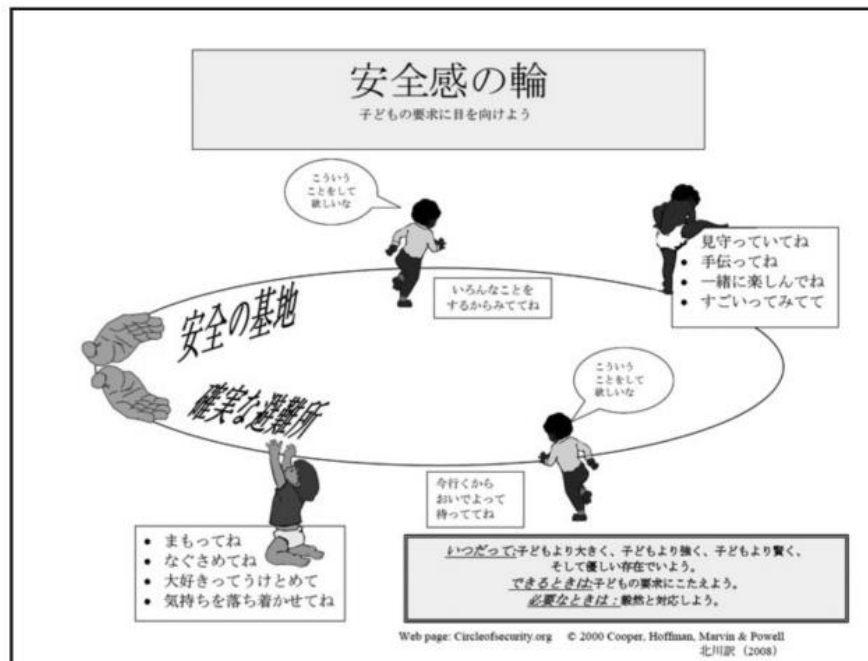
げんざい
現在、ひきこもりご本人とご家族のかんけい
関係はどうでしょうか。

ここ1か月の間でご本人ができていることに ☒ をいれてみましょう。

- ☐ 家族の声かけに返事をする（何らかの反応をする）
- ☐ 家族の声かけに意思表示をする（はい・いいえ など）
- ☐ 家族とあいさつをする
- ☐ 家族に話しかける
- ☐ 家族と雑談をする（テレビ・政治・趣味の話 など）
- ☐ 家族と将来のことなどについて会話する
- ☐ 用事があれば、家族がいてもリビングや台所に来る
- ☐ 家族と一緒に食事をする
- ☐ 家族がいる部屋で長い時間過ごす



あんぜん き ち
コラム：安全基地



図②安全基地

子どもたちの成長には、信頼できる大人が近くにおいて、安全な環境を提供してくれるという「安心感」が重要です。この安心感があると、子どもたちは自信を持って広い社会に飛び出し、自らの力で探求を始められます。

何か問題があったときには信頼できる大人のところに戻ってくことで、子どもたちは安心感を得ることができます。心理学者メアリー・エインズワースは、このような大人の存在を「安全基地（Secure Base）」と呼びました。このこころの拠り所「安全基地」は、年を重ねてからも必要だと言われています。

ひきこもりご本人にとっても、信頼できる存在や安心できる環境が重要です。ひきこもりご本人にとっての安全基地とは、ひきこもりご本人が心地よく過ごせる場所や、支えとなる人々のことを指します。

4. 望ましい行動と望ましくない行動

ひきこもりご本人との^{かかわ}関りを考えるために、望ましい行動と望ましくない行動に分けて考えていきましょう。

望ましい行動とは、ひきこもりご本人が現在行っている行動の中で、家族がもっとやってほしい事です。

望ましくない行動とは、ひきこもりご本人が^{げんざい}現在行っている行動の中で、家族がもうやってほしくない事です。

現在、どのような望ましい行動と望ましくない行動がありますか。

- 望ましい行動

- 望ましくない行動

いかがでしょうか。

望ましくない行動のほうが、望ましい行動よりとても多い場合には、ひきこもりご本人の悪いところに過度に注目してしまっている可能性があります。

ひきこもりご本人である他者の行動を変えるのに、今やっている行動をやめさせたり、今はやっていない行動を新たに始めさせることは困難です。

一番効果的なことは、今やっている「望ましい行動」を増やすように働きかけることです。

望ましい行動が増えれば、自然と望ましくない行動は減ります。

望ましい行動を探すよう、心がけて生活をしていきましょう。



5. 望ましい行動を見つける

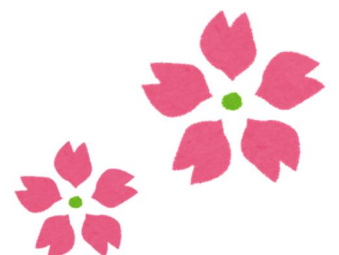
望ましい行動を見つけるのにも「コツ」がいます。

例えば、仕事をする、というのは家族が「してほしい」行動です。大事なのはひきこもりご本人が「今やっている事」のなかから望ましい行動を見つけるということです。

➤ ある研究^{けんきゅう}で、ひきこもりからの回復過程^{かいふくかてい}で見られる望ましい行動のリストが作成されています。(Nonaka, et al., 2018)

- 他者交流^{たしやこうりゅう}
 - ◇ 他者を遊びに誘う
 - ◇ 自分の気持ちを家族以外の人に伝える
- 家庭
 - ◇ 家族との話し合いに応じる
 - ◇ 家族に話しかける
- 価値
 - ◇ 目標に向けた取り組みをする
 - ◇ 達成感^{たっせいかん}の得^えられることをする
- 社会参加
 - ◇ 仕事に行く
 - ◇ 学校に行く

このなかで一番行われる可能性^{かのうせい}が高い「望ましい行動」は、「家庭」の項目に含まれるものと分かっています。



6. 今現在の行動の中で望ましい行動を見つけましょう。

- ☐ 返事をする
- ☐ い し ひょうじ
意思表示がある
- ☐ 家族の関りを拒否しない
- ☐ トイレに行く
- ☐ 最低限の食事をとる
- ☐ 不定期に入浴する
- ☐ まとまった時間の睡眠をとる
- ☐ 洗濯物を洗ってくれる
- ☐ 洗濯物を干してくれる
- ☐ 洗濯物を取り込んでくれる
- ☐ 洗濯物をたたんでくれる
- ☐ 料理やお菓子を作ったり、手伝ってくれる
- ☐ 食事前に食器や料理を並べてくれる
- ☐ 食後に食器を片付けてくれる
- ☐ 食後の食器を洗ってくれる
- ☐ 部屋またはリビングなどの掃除をしてくれる
- ☐ 洗面所またはお風呂掃除をしてくれる
- ☐ ベランダや庭の掃除をしてくれる
- ☐ 買い物に付き合ってくれる（物を持ってくれる）
- ☐ 買い物に行ってくれる

7. ご本人との関係^{かんけい}について目標^{もくひょう}をたててみましょう

【長期^{ちやうきてき}的な目標^{もくひょう}】例：外食^{がいしょく} / 美術館^{びじゅつかん}に行けるようになりたい
同じ部屋^{おなへや}にいて、穏やか^{おだやか}な時間^{じかん}を過ご^すせる



【短期^{たんきてき}的な目標^{もくひょう}：ご家族自身^{かぞくじしん}ができること】

例：朝^{あさ}のあいさつする ・ 買い物^{かもの}に誘^{さそ}う

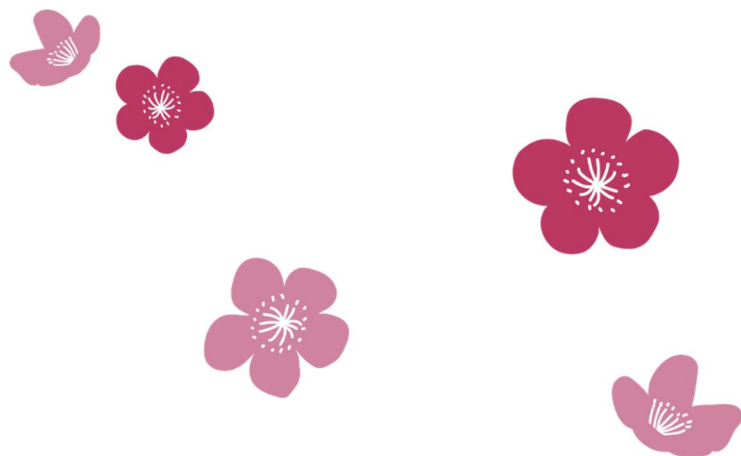


8. ひきこもり支援^{しえん}における大切なこと^{たいせつ}

ひきこもり支援^{しえん}では、ひきこもりご本人^{ほんにん}が自分自身^{じぶんじしん}のペースで、
少しずつ自信^{じしん}を取り戻^{もど}し、いろいろな選択肢^{せんたくし}の中^{なか}から自身^{じしん}で達成^{たっせい}
できそうな目標^{もくひょう}をもてるようにサポート^{たいせつ}することが大切です。

そのため、ご家族^{かぞく}の理解^{りかい}と支援^{しえん}は大きな意味^{いみ}をもちます。
ただ、ご家族自身^{かぞくじしん}も疲労困憊^{ひろうこんぱい}していることが多いか^{おお}と思います。
ご家族^{かぞく}が生活^{たの}を楽しみ、家^{いえ}の風通し^{かぜとお}をよくすることも大事^{だいじ}です。





〔参考文献〕

厚生労働省「ひきこもりの評価・支援に対するガイドライン」

厚生労働省「ひきこもりかな？」と思ったら

境泉洋 CRAFTひきこもりの家族支援ワークブック[改定第二版] 金剛出版（2022）

名古屋市ひきこもり地域支援センター

制作：千葉県ひきこもり地域支援センター

第1版発行 令和5年 4月

第4版発行 令和8年10月